

### 会社概要

東洋電装株式会社
代表取締役社長 桑原 弘明
所在地 広島県広島市安佐南区緑井 4-22-25
資本金 1,015 万円 従業員 57 名
事業内容 制御盤の設計・製造・販売、 ネットワークインテグレーター、 介護福祉向けシステムインテグレーター
URL <a href="http://www.t-denso.com">http://www.t-denso.com</a>

1972 年設立。配電盤及び自動制御盤の設計を主な事業としてスタートした企業であり、現在では制御盤事業だけでなくインフラネットワーク事業、介護福祉システム事業など多岐に渡る事業展開を行っている。モノづくり企業として顧客の目的や要望に合わせた一貫対応（製品開発やカスタマイズ対応など）を信条としている。

### ● 事業展開に至る経緯

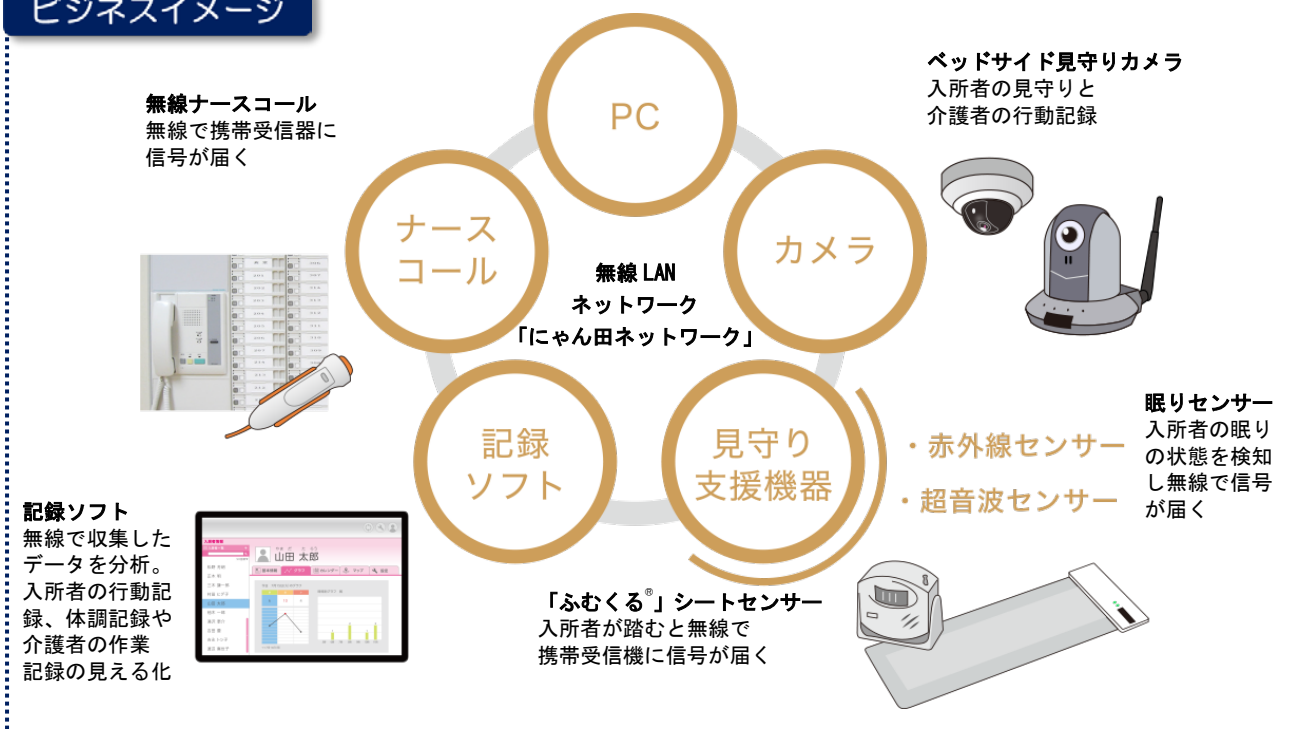
東洋電装(株)は、2014 年、取引先からの介護マットを製作してほしいという要望からマットにセンサー機能を搭載した「ふむくる®」を開発した。「ふむくる®」は、2mm の薄いシートであり、本体に無線を内蔵し、電池で作動するのが特徴である。同社の主要事業は制御盤製造であるが、インフラネットワーク事業、公共システム事業で培われた高い技術力をベースにしたネットワークシステム構築に強みがあり、「ふむくる®」をベースとしてネットワークで介護用センサー機器を繋ぐ介護医療システム事業を展開するに至った。

このシステムは、「にゃん田ネットワーク」という名称で、24 時間 365 日サポートのカスタマーセンターによる保守体制とクラウド管理の仕組みを整備している。介護職員の離職者を減らすことをミッションとして、「にゃん田介護」というブランドで全国に事業展開している。

### ● IoTを使ってモノからコトへ

従来、介護の現場ではナースコール、シートセンサー、眠りセンサーなど個々の技術を導入している事例は多く存在したが、それらのセンサー機器をネットワークで結んだシステムは存在しなかった。同社は、無線技術やネットワーク技術を利用して、それらのセンサー機器を連結し、収集したデータをクラウド上で管理。分析し可視化したものを介護施設のパソコンにフィードバックしている。このシステムでは、介護職員の負担が軽くなるだけでなく、可視化したデータが見えることで、より良い介護に結び付き、職員のレベルアップと入所者に対する介護サービスの向上に寄与している。

## ビジネスイメージ



## ● ユーザーとの価値づくりのポイント

高齢化社会では介護施設に対するニーズは増大しているが、施設職員の厳しい労働環境は改善されない傾向が続いている。福祉機器の導入により介護現場の負担を軽減する動きはあるが、機器を単なる「モノ」と捉えた場合、一部分だけの作業効率化にとどまってしまう。同社のケースでは、センサー機器をネットワークで結び、そのシステムから生み出される価値を介護職員や入所者に提供している。同時に、介護現場の労働環境改善し、介護従事者の離職を減少することに貢献している。

また、入所者と介護職員との間のデータを双方向でやり取りすることで価値の共創を行っている。将来的には、センサーメーカーと連携し、同社がネットワーク全体をまとめ、スマートフォンで情報を見ることが出来る取り組みも始めている。眠りセンサーで収集したビッグデータの解析を通じた新たなサービス展開の可能性も踏まえ、今後は、データを活用した価値づくりが課題となる。

## 知財戦略

本製品に関して特許は取得していない。

事業が拡大するのに伴い新しい技術が開発されることが予想されるが、技術を知的財産権で保護することによって、他社の参入を阻止し、自社の競争力の維持を図ることができる。

## ● サービス・ドミナント・ロジックの視点

- 新たに展開する介護医療システム事業は、制御盤製造事業で培ってきたネットワークシステムに強みのある同社だからこそ可能になったものといえる。
- そこでは、入居者と介護職員との間に直接的相互作用関係が構築されており、価値共創が実現しているが、実際は、家族を加えた3者間での価値共創の実現を考えていく必要があり、その際には、サービスの与え手が介護職員であり、受け手は入居者或いは家族であることに十分に留意したシステムづくりが望まれる。即ち、入居者或いは家族にとっての価値の共創が優先される。
- そして、同社の今後の事業展開としては、システムの提供に留まらず多様で膨大なデータの分析から、システムの利用に伴うマネジメントの請負などが考えられる。